

肢体不自由

肢体不自由とは、手や足、身体のどこかが動かない、あるいは動かしにくい状態にあることです。例えば、手足などの関節が曲がったまま固まってしまう、身体に力が入らない、手足が自分の思いとは関係なく動いてしまうなど、さまざまな状態があります。肢体不自由の人は、車いすや杖などを使うことがあります。

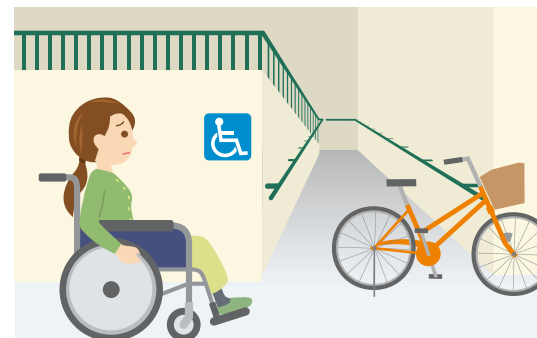
困っていることを理解しましょう

車いすを使っていると、地面の段差や傾斜、物が置いてあって狭くなっている道で立ち往生

してしまうことがあります。また、車いすの前輪は小さいので、溝にはまってしまうと、自力で抜け出すことができなくなることがあります。



車いす利用者は、出入口に段差があると通れません。また、エレベーターがないと上の階に行けません。



歩道や車いす利用者などのためのスロープに自転車などの障害物が置かれていたり、狭い道路にお店の看板があったりすると、車いす利用者が通れないことがあります。



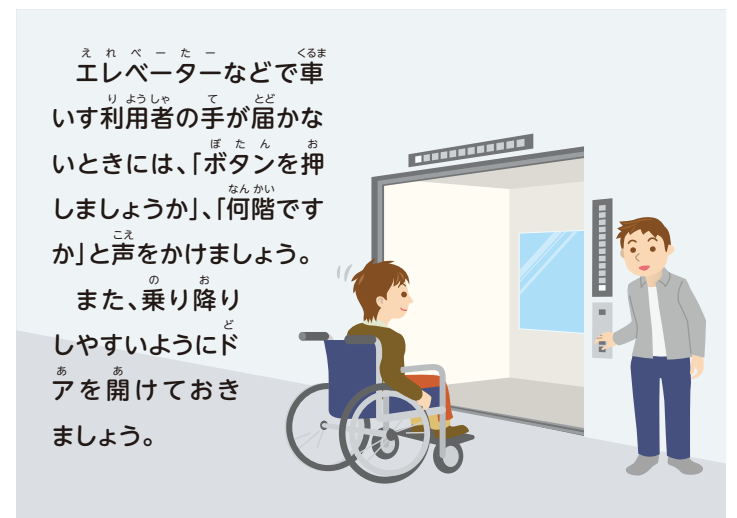
車いすで走行中に、歩いている人の持っているカサやかばんがぶつかることがあります。



側溝のふたの目の粗いところ、歩道のタイルの割れ目などに車いすの前輪がはまってしまうことがあります。

こんなことに配慮しましょう

誰にでも、いつでもできる支援は、歩道などをふさぐように物を置かないこと、歩道をふさいでいる物を取り除くことです。車いすや杖を使用している人の通行を妨げないようにし、車いすや杖を使っている人の手が届かない場所にある物を取る、ボタンを代わりに押す、乗り降りしやすいようにドアを開けておくといったことも大切な支援です。



身体障がい者補助犬

身体障がい者補助犬は、「身体障害者補助犬法」で定められている盲導犬、介助犬、聴導犬の総称です。「身体障害者補助犬法」により、交通機関などの公共施設だけでなく、不特定多数の人が利用する病院、レストランなどでも補助犬の同伴が認められています。身体障がい者補助犬はペットではありません。飼い主に無断で、話しかけたり、触ったりすることや食べ物、水などを与えることはやめましょう。

ほじょ犬マーク



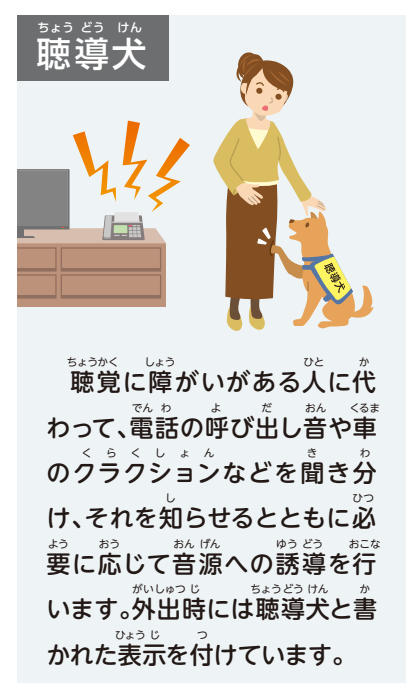
補助犬同伴の啓発のためのマークです。



視覚に障がいがある人が、街中を安全に歩けるように障害物を避けたり、車の接近などの危険を知らせたりします。ハーネス（胴輪）を付けているのが特徴です。



肢体に障がいがある人の手足となつて、落とし物や渡したり、ドアを開けたり、着替えを手伝ったりと活躍します。外出時には介助犬と書かれた表示を付けています。



聴覚に障がいがある人に代わって、電話の呼び出し音や車のクラクションなどを聞き分け、それを知らせるとともに必要に応じて音源への誘導を行います。外出時には聴導犬と書かれた表示を付けています。